

設立趣旨書

1. 趣旨

自閉症をはじめとする発達障害は「この世でもっとも困難な障害」だと言われていました。発達障害のある子どもを持つ私たち親は、みんな一度は深い絶望感を抱きました。わが子の障害を告知され、一生治ることのない障害を抱えた子どもをこれから先どのように教育し育てていけばいいかを悩み、苦しみました。

しかし、TEACCHプログラム（別紙参照）に出会い、自閉症という障害をそのまま受け入れ、「自閉症のひとは彼ら独特の文化をもっている」と言い、一生涯を通じて包括的に「ゆりかごから墓場まで」支援していくプログラムがあることを知りました。そしてTEACCHを州の公式プログラムとして導入しているアメリカのノースカロライナ州では、その支援体制のもと障害を持つ人たちが、自らの意志でいきいきと働き生活し、地域の中で幸せに暮らしていることを知りました。

自閉症および多様な発達障害のある人たちが安定して過ごすには「どこにどのように住むのか（居住）」、「どのように働くか（就労）」、「どのような余暇を楽しむか（余暇）」という3つの点に配慮して支援していくことが必要だと言われています。

私たちも親の会で活動していく中で、わが子と、地域の中で、社会の中でともに生きてゆきたいと強く願うようになりました。その想いを実現させるためにも、将来的に「居住、就労、余暇」の3つの分野における支援体制を整えていきたいと思えます。

TEACCHを学ぶ倉敷親の会をNPO法人という法人格を持った組織に整え、より広く社会地域教育の推進に寄与することを目的とし、NPO法人ケセランパセランを設立したいと思えます。

2. 申請に至るまでの経緯

2000年6月「TEACCHを学ぶ倉敷親の会」が発足しました。TEACCHとは「自閉症及び関連するコミュニケーション障害のこどもたちと成人のための治療と教育」のプログラムで、ノースカロライナ大学の医学部精神科において40年にわたり研究実践されてきました。TEACCH研究の日本の第一人者である川崎医療福祉大学 佐々木正美教授が保護者向けに開いていた「TEACCHプログラム勉強会」に参加していた保護者が中心となって親の会を結成し、保護者同士の情報交換を目的として活動してきました。

その後、自閉症療育にかかわる勉強会、プール療育、親子料理教室、キャンプ等の余暇活動、本人が自立に向けて活動する「本人の会」の立ち上げなどを行ってきました。また、専門家の方々を招き、保護者のみならず教育関係者やさまざまな分野の方にも多様な発達障害に対する理解を深めてもらうための啓発活動を積極的に行っていました。

ここに親の会をNPO法人としてより発展させ、多様な発達障害を持つ人たちのニ-

ズに応える活動をしていこうと決意いたしました。

2005年4月26日	川崎医療福祉大学佐々木正美先生、小林信篤先生等を交え、8名でNPO法人発足に向けての第1回設立発起人会を開催
2005年5月	設立準備会を2回開催
2005年6月	設立準備会を5回開催
2005年7月	設立準備会を4回開催
2005年8月	設立準備会を5回開催
2005年9月	設立準備会を6回開催

平成17年9月20日

特定非営利活動法人 ケセランパセラン
設立代表者 住所 倉敷市真備町箭田
氏名 安松 和江 印